

日本吃音・流暢性障害学会第5回大会
ハンズオンセミナーⅤ
2017年8月20日(日)13時40分～14時15分

チェックリストから始めるクラタリング支援

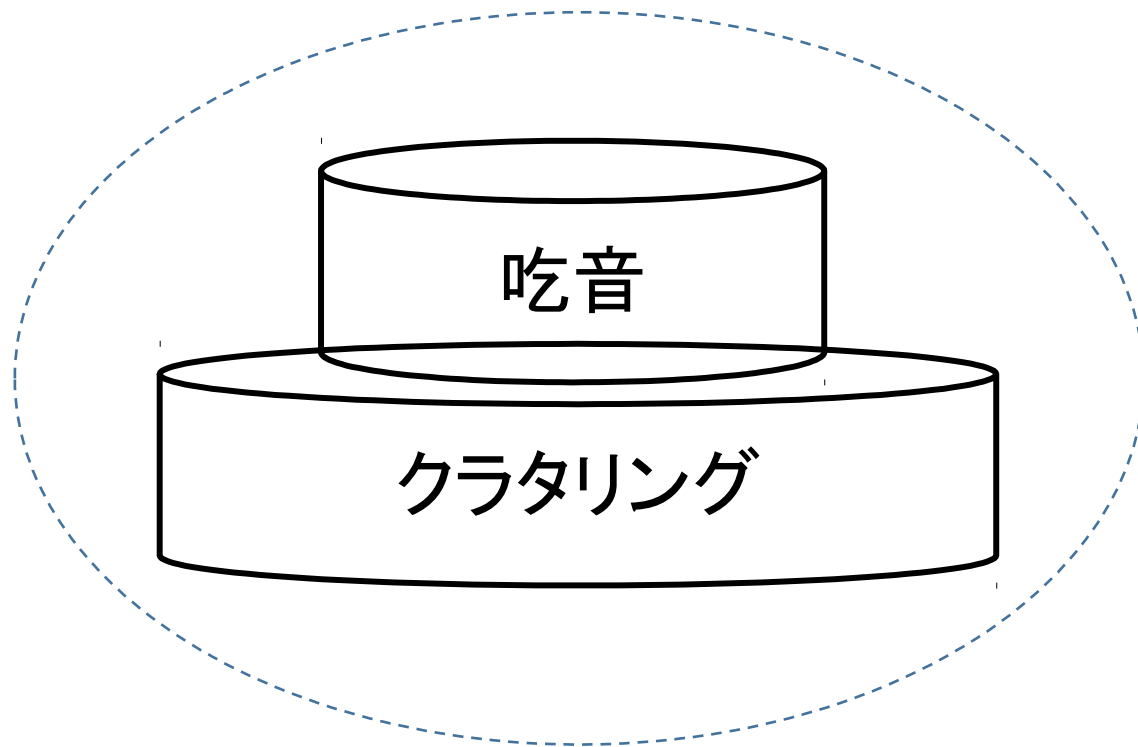
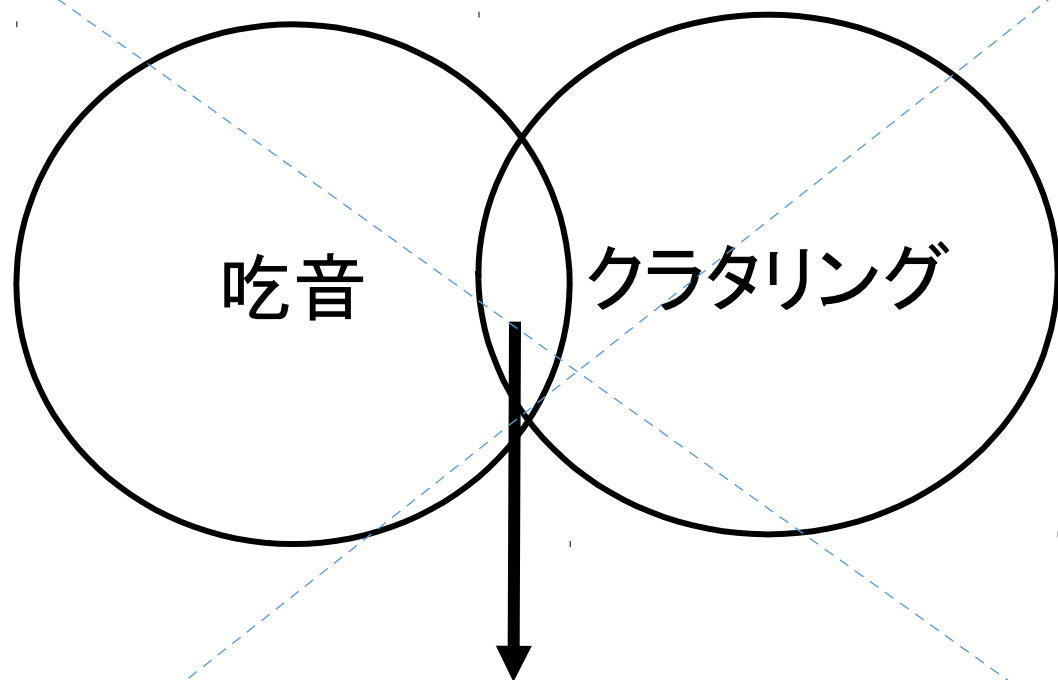
会場:長良川国際会議場
5F 国際会議室

講師:筑波大学人間系 宮本昌子

発話流暢性障害の種類とクラタリング

- 発達性吃音 → childhood onset fluency disorder (DSM-5)
小児期発症流暢症/小児期発症流暢障害(吃音)
3～5歳で発症, 非流暢性症状は文頭や語頭に生じる
二次的行動が起こる (Bloodstein, 1995)
- 獲得性神経原性吃音 → acquired neurogenic stuttering
通常学齢期後, 神経学的疾患や脳損傷により発症する
非流暢性症状は語頭音で生じるとは限らない (Duffy, 2005)
二次的行動がほとんど起こらない (Bloodstein, 1995)
- 獲得性心因性吃音 → “functional” or “non-organic” stuttering
心的なストレスや外傷体験に続いて生じる
- cluttering (クラッターリング) (クラタリング) (早口<乱雑>言語症),
ICD-10 (F98.6)
→ Van Riper
のタイプ II (言語発達遅滞型), Preusのcluttering-like stuttering以来, 非典型的な吃音に位置づけられる ⇒ クラタリングースタタリング

クラタリング・スタタリングのイメージ



クラタリングースタタリング＝クラタリングと吃音の合併

クラタリング・スタタリングの有病率

- クラタリング： 0.4～27%
- クラタリング・スタタリング： 10～43%

有病率

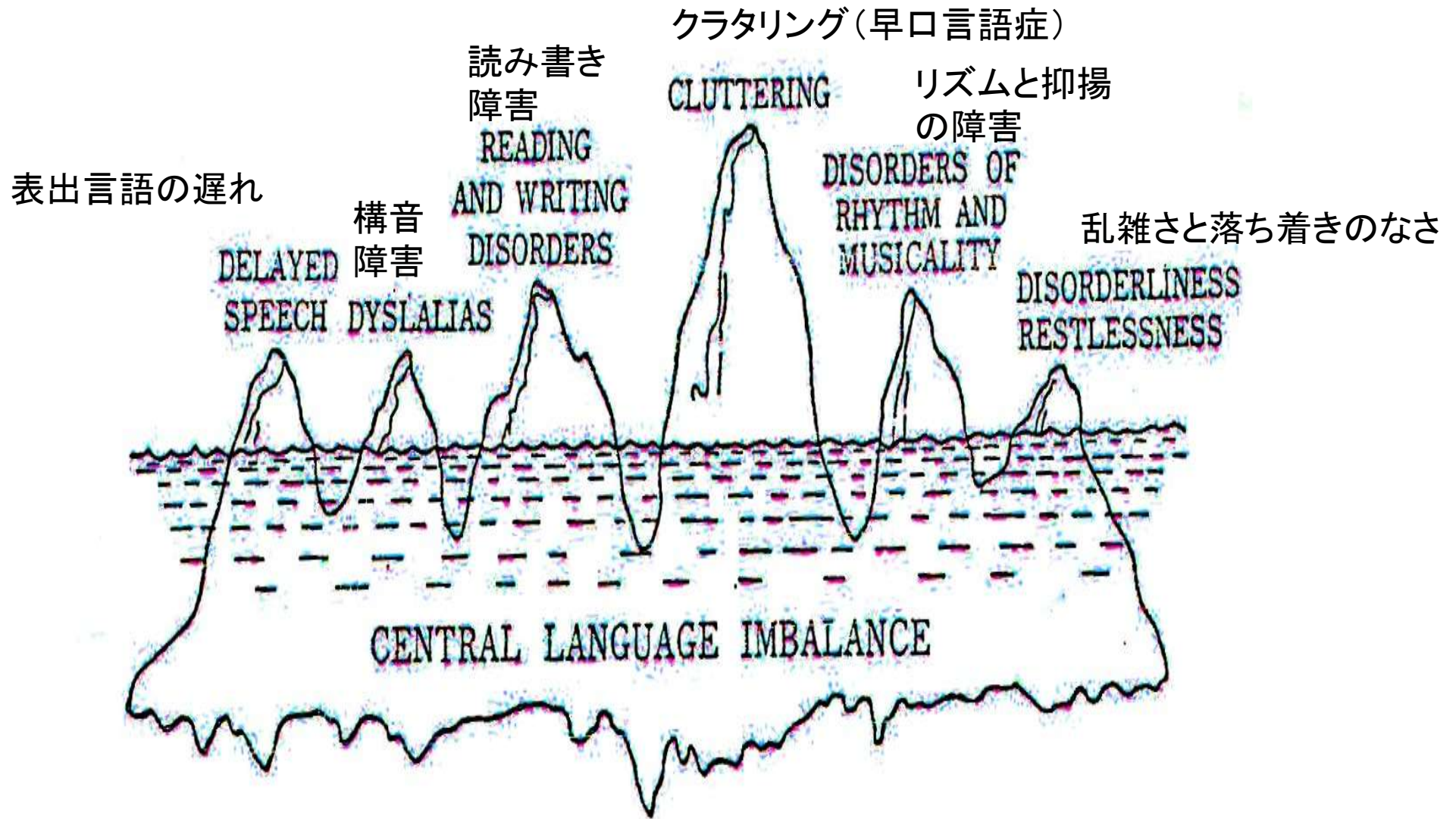
対象

17.7% (Howell & Davis, 2011) 発話流暢性障害のある青年期前の者

14.9% (Miyamoto et al., 2006) 吃音ある児童

12.0% (Van Riper, 1973)

発話流暢性障害のある者



中枢的な言語の不均衡 (Weiss, 1964)

クラタリング

認知

自覚
聞き手を意識する
セルフ・モニタリング

注意のスパン

思考の組織化
系列化
類型化

記憶

衝動的

言語

受容言語
聞く/書き取る
読みの能力

表出言語
思考の組織化
物語る能力低下
言語の組織化
言い直し、繰り返し
不適切な言語構造
音節、語句の置換
不適切な構音使用
記憶障害/喚語困難
つなぎ言葉、意味のない言葉

表出書字言語
無終止文
音節と語(文字)の

省略と置換
不完全な文

語用

不適切な話題
話題の導入、維持、完結

不適切なターン・
テーク

聞く能力の低下;
衝動的な反応

聞き手の視点を
意識した考慮の
欠如

非言語サインの
不適切な処理

多弁、話の脱線

アイコンタクトの
少なさ

発話

非流暢性発話
過剰な単語・句
の繰り返し

音節や語句の置換

プロソディー
速度(速い、不規則)
リズム感のなさ
大きい声、あるいは、消

えるような声
語間のポーズの欠如
抑揚のない話し方

不明瞭な構音
音の省略
音節の省略
/r/と/l/

リズムカルでない息継ぎ

不自然な沈黙、口ごもり

運動

運動コントロール能力低下

構音不明瞭な発話

リズムカルでない息継ぎ

発話非流暢性
過剰な単語・句の繰り返し

不自然な沈黙、口ごもり

プロソディーの問題
速度(速い、不規則)
リズム感のなさ

不器用、協調運動の苦手さ

書字能力(書法、筆跡)の低下

衝動的

言語的非流暢性モデル
(Daly & Burnett, 1999)

クラタリングの中核症状（狭義の定義）

- 発話速度が速い，速さが不規則である
- 正常範囲の非流暢性が多い
- 構音が不明瞭である
（調音結合，省略や短縮などによる）

（St. Louisら, 2011 clutteringのLCDモデルによる基準）

日本版クラタリングチェックリスト ver.3（試案） の活用方法

- 吃音を主訴として訪れた児童全員に実施する
- 合計得点15点を目安に、クラタリング・スタタリングを疑う
- クラタリング・スタタリングが疑われた場合、まずはクラタリングの方に目をむけ、支援を行う

（＊吃音の問題に対する支援を行っても改善が難しいと思われる。）

⇒チェックリストの各項目間でつながっているものが多い。目立つ問題から支援を開始すると、他の項目が改善されることもある